

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所		
○保護者評価実施期間	R7年 12月7日		～ R7年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	R7年 12月7日		～ R7年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・周囲にたくさんの公園や商店街、自然(海、川など)もあり、いろいろな体験をする機会が多い。	・天候がよければ、公園に行って、体づくり、さまざまな姿勢をして体幹を鍛える機会を作っております。 ・地域の方々と触れ合える機会を作っている。	・自然遊びで、子ども自身が考えて、自主的に遊べるような取り組みの工夫を図る ・楽しい体験ができる機会を作る為にも、昔遊びの取り組み、安全を配慮して、昔は体験できたことも取り入れていく。 ・地域とのつながりが増えるようにイベントの開催をする
2	・日々、療育前に打合せをして、療育後には、午前と午後反省会を実施。その日の振り返りを行い、次の療育につなげるようにしている。	・日々の振り返りを行い、職員間での意識統一、迷っている点を共有して、どのようにしていくか話し合う場を作っています。	・研修会の参加、他事業所への訪問を通じて、何がなか、どのような支援をしていくことが大切か、より深く理解していく
3	・子供のそれぞれの特性をより深く理解をして、声掛けの仕方、支援の仕方、過剰な支援にならないよう、自主性を重んじている	・日々の反省によって得られた対応の仕方を、実践に移せるように支援していく	・反省で、職員の気付きを導けるようにしていく。 ・保護者、他の専門スタッフとの交流機会を多く取り入れて、支援につなげていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設の規模が小さく、工夫しながら取り組んでいく必要がある。	・事業所の移転も考えてはいたが、現在の経営状況では難しい。 ・できることがないか、職員間で工夫して取り組んでいく	・物品購入など意見を取り入れて、よりよい療育につなげていく
2	・昼の食事の提供がなく、保育園等のニーズの把握が必要(長時間な療育が必要か)	・保育園の忙しい時間での帰園で迷惑をかける事が多く、保育園の先生ともより交流を深める必要がある。 ・子どもにとって何がよいか考えて、どのような体制をとっていくか	・昼の食事の提供も検討 ・時間帯の配慮も検討
3	・字が書けるなど、学力につながる意見もあり、取り組みをどうするか	・遊びの中で学べる工夫はしているが、それを理解されていない保護者の方もいる。	・保護者の方に、療育の見学を増やしたり、どのような工夫をしているか説明できるツールの活用